

レディーミクストコンクリート配合計画書

No. _____

令和 6年 7月 1日

(株)加島建設 生コンクリート工場

広島県庄原市高野町新市418番地
TEL (0824) 86-2228・2152

配合計画者名

工事名称	
所在地	
納入予定時期	令和6年7月1日～令和7年3月31日
本配合の適用期間 a)	(標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランフ ^{*)} 又はスランフ ^{*)} フロー ^{*)} cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m ³
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度		コンクリートの温度	- °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m ³
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m ³
	呼び強度を保証する材齢	- 日		流動化後のスランフ又はスランフフローの増大量	- cm
空気量	-				

使用材料 c)						
セメント	生産者名	株式会社トクヤマ	密度 g/cm ³	3.04	Na ₂ Oeq % d)	-

混和材①	製品名	種類	密度 g/cm ³	Na ₂ Oeq % e)
混和材②	-	-	-	-

骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリ反応性による区分 f)		粒の大きさの範囲 g)	粗粒率又は実積率 h)	密度 g/cm ³ 絶乾	微粒分量の範囲 % i)
				区分	試験方法				
細骨材	①	加工砂	島根県仁多郡奥出雲町	A	モルタルバー法	5以下	2.60	-	2.57 3.0以下
	②	砕砂	広島県三次市布野町下布野	A	化学法	5以下	2.70	-	2.64 3.0±2.0
	③	-	-	-	-	-	-	-	-
粗骨材	①	砕石1505	広島県三次市布野町下布野	A	化学法	15~05	6.30	-	2.72 1.0±1.0
	②	砕石2010	広島県三次市布野町下布野	A	化学法	20~10	7.00	-	2.72 1.0±1.0
	③	砕石4020	広島県三次市布野町下布野	A	化学法	40~20	7.95	-	2.72 1.0±1.0
	④	-	-	-	-	-	-	-	-

混和剤①	製品名	種類	Na ₂ Oeq % j)
混和剤②	-	-	-
混和剤③	-	-	-

細骨材の塩化物量 k)	①0.00%	水の種類 l)	回収水(上澄水)	目標スランフ 固形分率 m)	- %
回収骨材の使用法 o)	細骨材	粗骨材	-	スランフ水の使用方法 n)	-

配合表 p) kg/m ³													
セメント	混和材		水 q)	細骨材			粗骨材			混和剤 r)			
	①	②		①	②	③	①	②	③	①	②	③	
275	-	-	154	408	408	-	216	432	432	-	3.190	-	-

水セメント比 s)	56 %	水結合材比 s)	- %	細骨材率	44.2 %
-----------	------	----------	-----	------	--------

備考	骨材の質量割合割合) 混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。			骨材混合比 (質量混合)	細骨材①:②:③	50.0:50.0	粗骨材①:②:③	20.0:40.0:40.0
----	---	--	--	--------------	----------	-----------	----------	----------------

注 1) 本配合の標準配合に追加、標準配合、又は修正標準配合を別記する。
 注 2) 標準配合は、レディーミクストコンクリート工場での標準配合の基準にしている配合で、標準配合の運動時間における標準配合の配合として標準化されているものとする。また、修正標準配合とは、出荷時のコンクリート強度が標準配合で想定した強度より大幅に超過する場合、運動時間が標準配合から大幅に異なる場合、又は骨材の品質が所定の範囲を超えて変動する場合に修正を行ったものとする。ただし、新骨材の計量試験データの精度において、回収骨材を入方法で使用する場合は、混合割合の修正を行わずに使用する。
 注 3) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 4) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 5) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 6) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 7) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 8) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 9) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 10) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 11) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 12) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 13) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 14) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 15) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 16) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 17) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 18) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 19) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 20) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 21) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 22) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 23) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 24) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 25) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 26) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 27) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 28) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 29) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 30) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 31) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 32) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 33) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 34) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 35) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 36) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 37) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 38) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 39) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 40) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 41) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 42) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 43) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 44) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 45) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 46) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 47) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 48) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 49) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 50) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 51) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 52) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 53) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 54) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 55) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 56) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 57) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 58) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 59) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 60) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 61) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 62) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 63) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 64) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 65) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 66) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 67) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 68) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 69) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 70) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 71) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 72) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 73) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 74) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 75) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 76) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 77) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 78) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 79) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 80) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 81) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 82) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 83) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 84) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 85) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 86) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 87) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 88) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 89) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 90) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 91) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 92) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 93) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 94) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 95) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 96) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 97) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 98) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 99) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。
 注 100) 骨材の呼び強度は、骨材の種類により異なる場合がある。

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号 普通	呼び強度 24	スランプ又はスランプフォー- cm 8	粗骨材の最大寸法 mm 40	セメントの種類による記号 BB
-----	----------------------	------------	---------------------------	----------------------	--------------------

指定事項

(1) 変動係数 (v)	当工場の実績により v = 10 %				
(2) 配合強度 (m)	$m_1 = \frac{1 \cdot S_1}{1 - \frac{2 \cdot v}{100}} = 30.0 \text{ N/mm}^2$ よって m = 30.0 N/mm ²				
(3) 水セメント比 (W/C)	$m = -17.5 + 26.9 \times C/W$ $W/C = 26.9 \div (30.0 + 17.5) \times 100 = 56 \%$ W/C = 56 %				
(4) 単位水量 (W)	当工場の実績により W = 154 kg/m ³				
(5) 単位セメント量 (C)	$C = W \div (W/C) \times 100 = 154 \div 56 \times 100 = 275 \text{ kg/m}^3$ $C_v = C \div \text{密度} = 275 \div 3.04 = 90 \text{ L/m}^3$				
(6) 空気量 (A)	A = 4.5 % × 1000 = 45 L/m ³				
(7) 細骨材率 (s/a)	当工場の実績により s/a = 44.2 %				
(8) 単位細骨材量 (S)	$S_v = (1000 - (W + C_v + A)) \times s/a = 711 \times 44.2 \% = 314 \text{ L/m}^3$ $S = S_v \times \text{表乾密度} = 314 \times 2.60 = 816 \text{ kg/m}^3$ $S_1 = S \times 50.0 \% = 408 \text{ kg/m}^3$ $S_2 = S \times 50.0 \% = 408 \text{ kg/m}^3$				
(9) 単位粗骨材量 (G)	$G_v = 1000 - (W + C_v + S_v + A) = 1000 - 603 = 397 \text{ L/m}^3$ $G = G_v \times \text{表乾密度} = 397 \times 2.72 = 1080 \text{ kg/m}^3$ $G_1 = G \times 20.0 \% = 216 \text{ kg/m}^3$ $G_2 = G \times 40.0 \% = 432 \text{ kg/m}^3$ $G_3 = G \times 40.0 \% = 432 \text{ kg/m}^3$				
(10) 単位混和剤量 (Ad)	Ad = C × 添加率 = 275 × 1.1600 % = 3.190 kg/m ³				

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
275	-	-	154	408	408	-	216	432	432	-	3.190	-	-
水セメント比	56 %		細骨材率	44.2 %			骨材混合比 (質量混合)	細骨材①:② 粗骨材①:②:③			50.0:50.0 20.0:40.0:40.0		

備考